

2016 年における日本籍クルーズ客船の国内港湾寄港回数調査について
 —横浜港が 13 年連続でトップ—

日本外航客船協会（JOPA）はこの程、会員クルーズ会社が運航する日本籍クルーズ客船 3 隻の 2016 年（1 月～12 月）の国内港湾への寄港回数調査結果を取りまとめた。合計寄港回数は、海外ロングクルーズの減少等から、2016 年の寄港回数は 593 回と前年の 510 回と比較して 83 回増加した。

寄港回数が最高となったのは、ほぼ前年並みの 87 回を記録した横浜港で、14 年連続でトップを飾った。第 2 位は神戸港の 73 回（前年比 20 回増）、第 3 位は名古屋港の 31 回（前年比 1 回減）となったほか、2013 年以来 4 年ぶりに第 4 位となった東京港が 17 回（前年比 7 回増）、九州クルーズ基点港である博多港は 5 位の 16 回（前年比 2 回増）等となった。

一方、目的地（寄港地）型の港としては、第 6 位にランクした屋久島の宮之浦港が 14 回（前年比 1 回増）、小笠原の二見港が第 12 位の 10 回（前年比 2 回増）、利尻島の杓形港が第 14 位の 8 回（前年比 1 回増）となったほか、沖縄クルーズの拠点港でもある那覇港が 11 回で 9 位（前年比 1 回増）等となっており、離島クルーズは定番となっている。この他、北海道クルーズの拠点港である小樽港が 10 回、東北クルーズの拠点港である仙台塩釜港が 9 回となっているが、本年度は広島港が 13 回で第 7 位（前年度比 6 回増）、函館港が 12 回で第 8 位（前年度比 8 回増）となったことが特筆される。

クルーズ各社及び旅行会社等が歳時に合わせた定番クルーズに加え、新規顧客の開拓を狙って、地方港発着のクルーズを増加させると共に自然、文化、歴史、グルメといったタイムリーでテーマ性、話題性に溢れたレジャー及びチャータークルーズの催行が反映していると考えられる。

寄港回数が 5 回以上の港湾及びエリア（運輸局）別の寄港回数は、以下の通り。

○寄港回数 5 回以上の港湾

港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数
横浜港	87	二見港（父島）	10	新潟港	5
神戸港	73	仙台塩釜港 （仙台・塩釜・石巻・ 松島）	9	伏木富山港	5
名古屋港	31	杓形港（利尻島）	8	輪島港	5
東京港	17	青森港	8	清水港	5
博多港	16	大阪港	7	四日市港	5
宮之浦港（屋久島）	14	長崎港	7	鳥羽港	5
広島港	13	金沢港	6	新宮港	5
函館港	12	青方港（中通島）	6	徳島小松島港	5
那覇港	11	別府港	6	油津港（日南）	5
小樽港	10	網走港	5	西之表（種子島）	5
秋田船川港	10	宮古港	5	総合計	593

○エリア（運輸局）別寄港回数（カッコ内は 2015 年）

エリア	回数	エリア	回数	エリア	回数
北海道	54 回 (39 回)	東北	54 回 (46 回)	関東	124 回 (120 回)
北陸信越	27 回 (21 回)	中部	57 回 (59 回)	近畿 (神監含む)	93 回 (77 回)
中国	36 回 (27 回)	四国	23 回 (19 回)	九州	103 回 (82 回)
沖縄	22 回 (20 回)			総合計	593 回 (510 回)